



地域内経済循環に対する取り組みと調査に関する報告書 町内経済循環をうながす4つの試み



はじめに

前回 2020年10月の調査では、町外の若者と町民の「交流の価値」を調べました。

外部の若者と交流している人たちは…



幸福度が高い



社会関係資本^{*}向上に貢献している



社会への貢献意識が強い

^{*}社会的信頼、地域活動への参加、人々とのつながりで構成されたもので、「生活の質」に影響するものだとされます。

つまり、
交流をすることで

「町のために」と行動する人が増えること
社会への「具体的な行動」が増えること がわかりました。

一方、「交流」だけでは解決できない課題があることもわかりました。

「交流」で地域の外から稼いだお金が再び外に出ていってしまうことです。



このことはいくら水を注いでも貯まらない穴の空いたバケツに例えて、「漏れバケツ理論」と呼ばれます。

補助金を出す
政府や組織

観光客

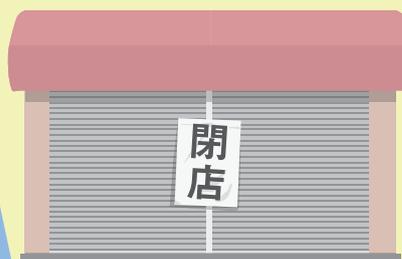
輸出先の
取引先企業

委託されている
地域外の業者

地域外の
エネルギー
会社

地域外のお店

これが進むと…



小さなお店が
無くなったり…



「買う」ことで支え合っていた
地域内のつながりが無くなったり…

これらを防ぐためには

地域内でお金を使う（バケツの穴を塞ぐ）
地域外からお金を稼ぐ（バケツに水を注ぐ）
必要があります。上記のことを踏まえ、
「4つの試み」を通して調査しました。

4つの試み

地域内でお金を使う

広田産食材の地域内流通サービス

広田産食材を買うことで生産者を支えつつ、地産地消が促進されることを目指します



地域内の経済循環率向上のための活動

地域内での購買行動、消費行動の良さを体験してもらうことで地域内経済循環率の向上を目指します

感染症対策を行った上で実施しています。



地域外からお金を稼ぐ

中～長期間用の滞在拠点の設置

滞在拠点を作り交流を生むことで、広田町のファンの増加を目指します

「SET受け入れガイドライン」を遵守して行いました。裏表紙記載のQRコードよりご確認ください。



広田産食材発送サービスとオンライン交流会のセット販売

広田と繋がりを持った外部の人が、どんなものを欲しいと思っているのか声を聞きます



これらによって「地域内経済循環」が作られるのかを調査しました。

地域内経済循環とは？

地域の外から稼いできたお金を地域の中にあるお店で使って生まれる、お金の循環のことです。



これが進むと期待できること



地域内で買い物ができる場所が増える



町の税金が増えて地域づくりが進む



地域内の人とのつながりが強くなる

2 広田産食材の地域内流通サービス

以下のような仕組みを作り、2020年9月から実施しました。



購入者に採れたての食材が届いた様子



生産者さんから魚を買わせて頂く様子

このような声が
購入者から届きました



購入者が喜んでい
る声や、色んな料理に挑
戦していたりするから、
生産者さんにその声
が直接届いて欲しい。

いつもありがとうございます
！生産者さんたち
を応援したい一心で
す。

決まった野菜が、しか
も顔の見える人の野菜
が届くのはとても良い
なと思います！

自分たちが地元の野菜
や魚を食べることで、
喜んでくれている人が
いると聞いて嬉しい。

生産者の皆さんが喜んでくださっていることや、誰の産品であるかがわかることで、応援したい気持ちが高まることになりました。

また、交流を生む「2つの取り組み」も行い、その感想を生産者の皆さんからお聞きしました。

メッセージカード

11月に購入者から生産者にメッセージカードをお渡ししました。



料理イベントの開催

生産者を招いて移住者が広田産の野菜で作った料理を振る舞いました。



メッセージカードの感想は…

こういうものをもらうと嬉しいわね～

みんな「美味しいです」と言ってくれて嬉しい

(購入者の調理方法に対して)

大したものだ～



料理イベントの感想は…

レシピを知りたい!

自分たちが作った野菜がこうも化けたのが嬉しい

加工品の方が地域にまわりやすいね

わかめ作業などの休憩にこうした料理があると手間が省けて助かる



関わってくださっている生産者の皆さんには以下のアンケートにもご協力いただきました

社会関係資本^{*}に関するアンケート (10段階評価)

^{*}社会的信頼、地域活動への参加、人々とのつながりで構成されたもので、「生活の質」に影響するものといわれます。

仕事にやりがいがある



広田町平均

6.9

生産者平均

7.5

5 6 7 8 9 10

地域の歴史や文化に誇りが持てる



広田町平均

6.8

生産者平均

7.9

5 6 7 8 9 10

地域とのつながりがある



広田町平均

6.8

生産者平均

8.4

5 6 7 8 9 10

“購入者と生産者が直接会わない交流”だけでも生産者の「つながり」や「やりがい」など幸福感や社会関係資本に関連する項目の向上が見られました。

生産者は広田町民平均よりも社会関係資本の向上、貢献行動、幸福度などにおいて高い数値であることがわかりました。



3

地域内の経済循環率向上のための活動

3種類の集会を実施し、それぞれ参加後にアンケート調査を行いました。

一次産業勉強会

一次産業に関心がある移住者を集め、一次産業に関わりたいと思ってもらうことを目的とした勉強会を行いました。

対象者 移住者

参加人数 5名



参加してどんな発見がありましたか？

温暖化と漁業で獲れるものの間には大きな関わりがあるということ

海水温上昇や気候変動による海の生態系の変化

牡蠣の剥き方！



この町の産業を手伝いたいと思いますか？

Yes No



若手漁師との交流会

移住者と若手漁師の協働が生まれるきっかけになるコミュニティ作りを目的とした交流会を実施しました。

対象者 移住者
広田町在住の20~30代漁師

参加人数 移住者9名
若手漁師3名



参加してどんな発見がありましたか？

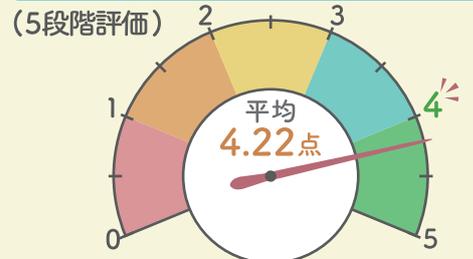
貝毒など現在漁師さんが困っている問題

一度都会に出てから戻ってきた若手漁師さんがいること

漁師という働き方に魅力があること

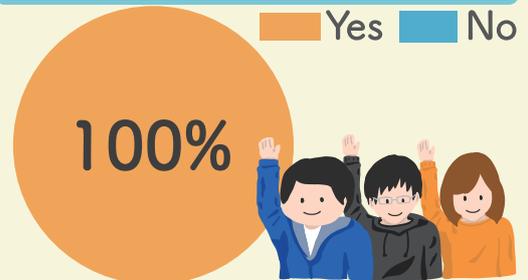


生産者と話して一次産業への関心はどれ程高まりますか？



この町の一次産業を手伝いたいですか？

Yes No



参加者は参加後、全員が一次産業の手伝いをしたいと思っ

たことがわかりました。また、生産者と直接話すことで、より一次産業への関心が高まることもわかりました。



地産の食材を用いた食事会

広田産食材をふんだんに利用した食事会を開催しました。広田産食材の良さを体験してもらうことで、地域内経済循環への意識醸成を目指しました。

対象者 広田町在住の10~30代の若者

開催回数 3回

参加人数 延べ76名

感染症対策を行った上で実施しています。



「計量テキスト分析」を用いました

膨大な文章の中で何度も使われている単語や言い回しの頻度を測る分析方法



~~~○○  
~○○~~



○○~~~  
~~~○○

以下の質問をしました

Q1. あなたは地域内経済循環にどのように貢献することが可能ですか？



地域の食材をできるだけ買って美味しく食べ、情報を共有すること

地域のものを買うこと、地域のものが消費される場をつくること

自分が買ったもののお金がどこに行くのか考えてから買うこと

「地域の食材を買うことが貢献につながる」と思う人が増え、経済循環への意識が醸成されたことがわかりました。

Q2. あなたは地域内経済循環の「価値」はなんだと思いますか？



生産者と消費者のつながりが生まれること

地域への愛着につながること

金銭的に地域内で支え合えて、地域の中にお金が回ること

消費者側にとっては「地域への愛着」や「生産者とのつながり」が大事であることがわかりました。

広田産食材が購入できる環境だけでなく「地域や生産者とのつながりを感じられる仕組みづくり」が必要であることがわかりました。



4

中～長期間用滞在拠点の設置

SETが保持している空き家を2週間～1ヶ月滞在用の拠点として提供しました。帰った後も広田町のファンとして広田産食材を応援購入したいと思ってもらえるか調査しました。



参加人数 3名（夫婦1組、女性1人）

参加目的 在宅勤務になったが、家ではない別の環境で働くことで気持ちを切り替えるため。

提供したサービス

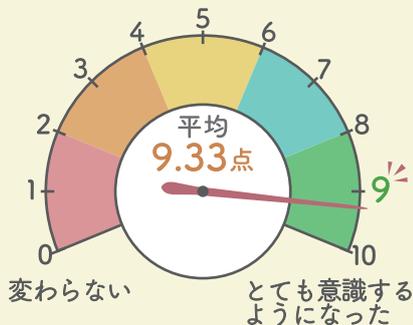
- ・広田町の食材やレシピの提供
- ・自転車の貸し出し
- ・町のおすすめスポットの紹介



「SET受け入れガイドライン」を遵守して行いました。裏表紙記載のQRコードよりご確認頂けます。

参加後に10段階評価アンケートに協力いただき、以下の結果が出ました。

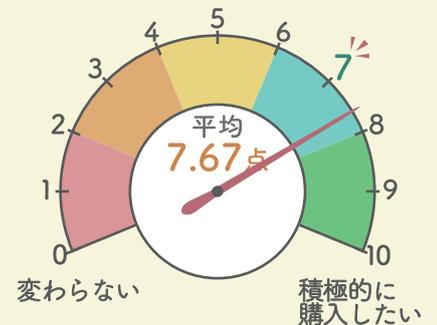
地産地消を考慮した食生活への関心は変わりましたか？



陸前高田、広田への愛着は変わりましたか？



広田町の野菜や魚、特産品を購入したいと思いますか？



実際に参加してみた声としては次のようなものがありました。

コロナも相まって、町の人と触れることは少なかった。農業や漁業体験のオプションに関心がある

現地の人との交流や生活体験をしたい

農家体験はやってみたい



陸前高田や広田町に愛着が湧き、買い支えたいという気持ちが高まること、「町の人と実際に会う交流がしたい」というニーズがあることがわかりました。



5

広田産食材発送サービスとオンライン交流会のセット販売

SET、広田とつながりを持った外部の人がどんなものを買いたいと思っているかを知るため、広田で獲れた魚をオンライン販売しました。購入者には生産者とのオンライン交流会の機会を提供しました。



購入者 6名(うち3名が交流会参加)

販売した広田産の魚



オンライン交流会の様子



物販利用した人は…

新鮮な魚を捌く機会に、と思い利用した

新鮮な広田の魚を食べたいと思った

魚の種類やレシピ、魚を獲った過程や漁師さんについての情報も知りたい

オンライン交流会に参加した人は…

魚を獲った漁師と話せるのは良い

漁師にも親しみが生まれて実際に広田を訪れたくなる

(利用者3名とも)
機会があればまた利用したい

「広田の新鮮な魚が食べたい」という声や、「オンライン上での交流を通して、広田を訪れたくなった」という声を聞くことができました。



まとめとこれからの展望

「4つの試み」を行ったことで、以下のようなつながりや結果がわかりました。

中～長期間用の滞在拠点の設置

地域外からお金を稼ぐ



参加者は愛着が湧き、広田の生産物を買いたいと思うこと

町の人と実際に会う交流がしたいと思うこと

広田産食材発送サービスとオンライン交流会のセット販売



広田の新鮮な魚が食べたいということ

実際に広田を訪れたいと思うこと

広田に対してお金を使いたいと思ってきているファン層が形成されることがわかりました。

つまり…



広田産食材の地域内流通サービス

地域内でお金を使う



購入者は生産者を応援したい気持ちが高まること

生産者の「やりがい」や「誇り」の向上につながる

地域内の経済循環率向上のための活動



この町の一次産業の力になりたいと思う移住者がいること

参加者は広田産食材を買うことで生産者に貢献したいと思うこと

生産者を想って応援購入する消費者と、それによりやりがいを感じる生産者が生まれることがわかりました。

つまり…



このような取り組みを今後も進めていく上でも、生産物がなければ始まりません。

生産者の皆さんの存在がこの町には不可欠です。



これからは…

4

より豊かになり、
た田舎型の暮らしが
しや新鮮な生産物
を価値提供



1

広田町のファン
層が生産物や交
流のためにお金
を使う



2

使われたお金は
まちづくりを進
める「投資」に
なる

3

投資によって産
業が発達し、田
舎型の暮らしが
より豊かになる

このようなサイクルを回すことで、地域の
ライフスタイルがより豊かになり、経済も
回っていく、そんな持続可能なまちづくり
を行っていきます。



今後はカフェ彩葉や中長期滞在拠点などのコミュニティスペースを活用し

手づくりパンの販売



広田産食材の地域内流通



コミュニティスペースの活用



カフェ彩葉では菓子製造、そうざい
製造の営業許可を取得しました。

野菜の生産



地域内経済循環率
向上のための活動



を、進めていきます。

ですが、私たちだけで地域内経済循環を活性化させることはできません。

ぜひ広田町の皆さんと一緒に、
地域内経済循環を高めていきたいと思っています！
今後ともよろしくお願ひいたします。

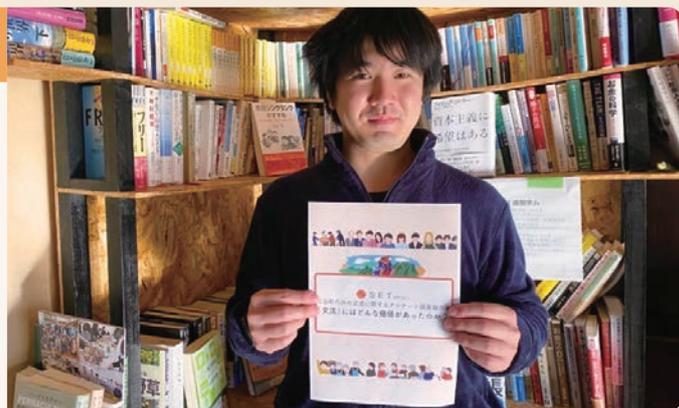


調査について

今年度よりSETに「シンクタンク(調査)部」が新設されました。SETの事業の価値を明確化し、事業が社会的に価値あるものになるよう努めます。

1年にわたる本調査、取り組みにご協力頂いた皆様に感謝いたします。

今後ともよろしく願いいたします。



前回の調査報告書、及び感染症対策のガイドラインにつきましてはNPO法人SETのHP (<https://set-hirota.com/>)にて公表しておりますので、より詳細に知りたい方はそちらをご確認ください。



「広田町内外の交流に関するアンケート調査報告書」(2020年10月発行)
<https://set-hirota.com/setchousa/202012>



「SET受け入れガイドライン」
<https://set-hirota.com/coronavirus>

YAHOO! 基金
JAPAN

©NPO法人SET 発行日: 2021年6月

本調査は「Yahoo! 基金2020年度被災地復興調査助成」を利用して行われました。

本調査は、大澤健教授(和歌山大学経済学部)、石田祐教授(宮城大学事業構想学群)の協力の元、行われました。

NPO法人SETとは

東日本大震災をきっかけに設立。「人が減るからこそ豊かになる人づくり、まちづくり、社会づくり」を行う。陸前高田市を主とした岩手県内に外部の若者を呼び込み住民との交流事業などを主な活動として展開している。